

虚子記念文学館投句特選句・令和八年八月

稲畑廣太郎 選

見えぬ風にも立秋の気配ふと

京都 西村やすし

なつかしき物を売る店牽牛花

兵庫 玉手のり子

蛸や靈山鎮めゆく落暉

兵庫 中村恵美

この小さき国土に二つ原爆忌

香川 三宅久美子

蛸の慰む六甲の親子句碑

兵庫 涌羅由美

輪郭の曖昧になる暑さかな

兵庫 武田優子

秋めくや松の影濃き平田町

兵庫 藤井啓子

稲妻やいのちの須臾に閉ざさるる

岐阜 丸山美樹

蝉時雨光あふるる旅の街

兵庫 武田奈々

思い切り転げ笑いて浜相撲

兵庫 藤丸慎士
(青少年)

入選句・令和八年八月

インフィニティプール喪ごころタゴころ	大阪	押見げばげば	向日葵の空へ空へとせめぎあふ	千葉	志村 肇
美少女のネイルに見惚れ赤い羽根	埼玉	小田毬藻	花火終ふしじまにはしじまの香り	千葉	鹿野川小舟
蛸やパイプオルガン鳴りやみて	香川	葛原由起	ナイターの果てて無言となる電車	石川	杉村佳津子
顔ほどの白ダリア据ゑ園の門	大阪	白石 翠	燈明や踊太鼓に風立ちて	東京	清水あき
凸凹もつるつるも愛らし南瓜	大阪	西尾浩子	はぐれきて木歩の土手をゆく夜長	大阪	棕本望生
大空にあぶり出す熱油蟬	岡山	石井宏幸	秋立ちぬあれやこれやが落ちて来し	千葉	野末トヨ
虚子館へ潮風とゆく汗涼し	石川	辰巳葉流	かちわりを二袋吾へ甲子園	愛知	海神瑠珂
流星や目の奥になほ光あり	兵庫	足立朱麻	竹婦人無骨な足を預けけり	兵庫	天下明太郎
甲子園球場帰り大日焼	大阪	多田羅紀子	AIが語り部てふや原爆忌	兵庫	岩永静代
遊船や嬌声の消す堰の音	兵庫	槌橋眞美	ししおどしの鳴りて久しや敗戦忌	兵庫	永田淳一
諍ひの余韻消すかに胡瓜もみ	石川	白根寿子	今日はしも化粧直して門火焚く	兵庫	岩水ひとみ
公開の遺跡整備や草の花	鳥取	前田 千	秋の灯や手招きをする羊男	兵庫	風待ラテ
松の香のふと濃くなりし盆の月	大阪	ふじもと言果	八月や箸の長さも変はりをり	富山	三河三可
聞いてゐる風な口してかき氷	兵庫	永沢達明	葛を刈りまた葛を刈る庭の端	神奈川	斉藤苑子
船虫のささと消えたる神の島	兵庫	辻 桂湖	朝顔のスタンプ並ぶ皆勤賞	兵庫	河合美恵子
ふるさとの町は小暗し盆の月	徳島	多田まさ子	母の声信じて吾子の西瓜割	兵庫	三木雅子
日盛の街の歪みを歩き出す	鳥取	棕 則子	道中に川霧見つつ日本海	兵庫	山岸正子
まくはうり赤子のやうな香りかな	兵庫	吉村玲子	朝顔を見て一日の動き出す	兵庫	山口弘子
うたた寝のやうに夏眠のかたつむり	兵庫	岸川佐江	素つぴんのまま朝顔の風に会ふ	兵庫	川村ひろみ
そこまでと思ひ日傘を置いて来し	京都	山崎貴子	大西瓜種飛ばしあふ子等の口	兵庫	山崎渺美
俳磚に燦々と日の鶏頭花	大阪	林 曜子	送り火の灰で道路に花描く	愛知	上手智子
手花火や人の一生語るよに	兵庫	深尾真理子	カルメンの赤を纏へるカンナかな	兵庫	伊集院秀樹
ソーメンに残暑絡めて継ぐ命	京都	夜寺耕太	空蟬へたましひの色残し置く	三重	瀬川琴女
イヤフォンにジェラシーを聴く蟬時雨	茨城	杉山 満	立秋やふと山の声海の声	兵庫	奥田好子
			八ヶ岳地を這ふ霧の速さかな	兵庫	福田光博

立秋や運転止まぬ室外機

兵庫

高市敦之

一斉に今年を終へる海の家

和歌山

中島紀生

蜜豆や玩具屋のない百貨店

神奈川

河埜スミ子

秋蝶や折れ線グラフ描く空

埼玉

菫崎りん

桃甘しひとの弱みにつけこむね

京都

草夕感じ

みどり児の寝入るキャリアへ秋の声

滋賀

近江堇花

ぽつぺんと尻が息継ぎするプール

熊本

夏風かをる

夏野菜煮る焼くよりも丸かじり

兵庫

井上雅人

夏の陽に照らされる青六甲山

兵庫

影山彩希

潮の香や波の音聞く盆の月

兵庫

藤丸千香子

鋭き歯釣りし太刀魚ざらつきぬ

兵庫

藤丸敦史

引き潮の砂平らなり処暑の影

神奈川

小林 心

夢に見し父の軍靴星月夜

大阪

富永武司

天の川浮かんで消える母の顔

大阪

深森明鶴

ゴジラ展出て峰雲のゴジラめく

兵庫

キートスばんじょうし

甘酒や気だるい午後をループする

大阪

深森佳鶴

なんとなく猫と目の合ふ夜の秋

兵庫

太平楽太郎

初秋の付箋にしたいこと三つ

兵庫

杉浦萌芽

遙拝の彼方八月十五日

兵庫

恵島祥一朗

故里の枝豆つまみ笑顔かな

兵庫

恵島京子

向日葵の黄色に君の声をきく

静岡

いたまき忖

大ぶりのスマホ片手に生御魂

大阪

森重深鶴

火焰土器のやうに立ち尽くすアイス

熊本

貴田雄介

行くあては君も無いのか穴まどひ

奈良

豚々舎休庵

あさがほの蔓に目のありみぎひだり

埼玉

吉田春代

片蔭の途切れ目ひよいと飛び越えて

神奈川

金子三奈乃